OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | スワヒリ＆アフリカ研究　28号　編集後記/奥付 |
| Author(s) | |
| Citation | スワヒリ＆アフリカ研究. 2017, 28 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/66407 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

## ☙編集後記❧

2月25日、ちょうど前期日程入試の監督業務の休憩時間だった。緊急のメールが届いて、その後はしばし茫然自失となった。タンザニアのダルエスサラームで根本利通さんが急逝されたという報せだった。

陳腐な表現で根本さんのこれまでの思いと活動を台無しにしたくはないが、敢えて言うならば、文字通り「タンザニアと日本の架け橋になる」ことを目指してずっとタンザニアのことを考えてこられた方だった。初めてお会いしたのはもう25年ほど前になる。それ以来、ダルエスを訪れる度にJATA ツアーズのオフィスに立ち寄り、また、ご自宅に招いていただいてお食事をいただき、遅くまでいろいろな話―スワヒリ語のこと、学生のこと、タンザニアのこと、日本社会のこと―をした。大学や研究機関に勤める研究者ではなかったが、様々な物事に対する洞察力や見識にはいつも感服させられた。

スワヒリ語の学生たちはいろいろな形でお世話になった。JATA ツアーズの社員として雇用していただいた者、インターンとして指導していただいた者、また、AT ツアーに参加した者もいる。時には厳しい口調で、時にはユーモアあふれる会話の中で、若者たちに大事なことを気付かせようとしておられた。そのことは、お世話になった者たちが一番よくわかっているはずである。

今年、私が8月に訪タンする際に新しくプロジェクトを立ち上げるための話を詰めようと、相談していた矢先だった。新しいプロジェクトとは、日本の絵本をスワヒリ語に翻訳して、タンザニアの村々で子どもたちに読み聞かせをしようというものである。私が授業で学生たちとすでに30冊以上の絵本を翻訳しており、そのリストはすでに根本さんにお渡ししていた。その中に根本さんが読み聞かせたい絵本がなければ、ご希望の絵本のリクエストをして下さいね―そのメールでのやり取りが最後になった。今は、今後のことを具体的に考える余裕がないが、根本さんの遺志を何とか形にしたいと思っている。

今年は「アルーシャ宣言」からちょうど50年である。根本さんならきっとそれに対する論評を発表されただろうと思うと、それがもう読めないのが残念としか言いようがない。今はただ、根本さんのご冥福を心からお祈りするばかりである。Mungu amlaze peponi salama salimini.

最後になったが、今号も無事に刊行することができた。学外からの投稿も、分野も複数あり、大変ありがたいことである。ご投稿下さったみなさん、査読の労を取って下さったみなさんに心から感謝する次第である。また、今号も大阪大学大学院言語文化研究科から助成金をいただいて刊行することができた。この場を借りてお礼申し上げる。

『スワヒリ&アフリカ研究』は国内の数少ないアフリカ地域研究誌の一つである。その自負を持って今後も継続発行していきたい。多くの方からの次号への投稿をお待ちしている。

（2017年3月11日　T）

2017年3月31日発行

スワヒリ&アフリカ研究　第28号

発行　大阪大学大学院言語文化研究科　スワヒリ語研究室
〒562-8558　大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1
編集　小森淳子、米田信子、竹村景子
印刷　株式会社アイジイ

ISSN 0915-8758